

平成29年度 地域貢献研究助成費 実績報告書

平成30年 3月30日

報告者	学科名	保健福祉学科	職名	准教授	氏名	樂木 章子
研究課題	子どもたちによる地域活性化運動に関するアクション・リサーチ：鳥取県智頭町の事例					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	樂木章子	岡山県立大学・准教授	グループ・ダイナミックス	研究全般	
	分担者	西川淳	鳥取県智頭町役場・副主幹	行政	フィールド研究全般のコーディネート	
		畑井克彦	阪神・智頭NPOセンター・代表理事	地域教育	アドバイザー	
研究実績の概要	<p>智頭町では、住民が行政に事業提案を行い、これに行政が予算をつけ住民が住民の手で地域活性化を実現させるという画期的なシステム（以下、「百人委員会」）が制度化されている。本研究では、近年開始された「子ども版百人委員会」の誕生プロセスやその実践を追尾した。</p> <p>本研究では、子ども版百人委員会に関する資料収集、その誕生に携わった関係者（智頭町長、智頭役場企画課職員、当時のアドバイザーである高校教諭など）を対象としたインタビュー、事業提案会や報告会の参加、および、事業の実施状況を参与観察を行った。</p> <p>（1）子ども版百人委員会 高校生版百人委員会の設立は、町長の「勉強が苦手で劣等感を持つ高校生が町で生き活きと活動する方法はないのか」という思いがその出発点となっている。町長は、他の自治体で高校生による商店街活性化の指導実績がある高校教諭からの助言を受け、智頭の高校生をまちづくりに巻き込むという構想を「高校生版百人委員会」という形で具現化した。この高校生版百人委員会の成功を受けて、「中学生版百人委員会」が立ち上がった。</p>					

※ 次ページに続く

<p>研究実績 の概要</p>	<p>①高校生版百人委員会 高校生による事業提案の中で採択された事業の実施内容で主たるものは、以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元の職人や染色家の助けを借り、高校生が格子や染め物を作成、これを智頭宿（古い町並みの街道）の民家に提供し、街並みを魅力的なものにしていく。 ・商店街に生徒による販売所（花、野菜、木製品など）を開設し、ここを住民のサロンの拠点とし、憩いの場を提供する。 <p>②中学生版百人委員会 中学生による主たる事業提案の中で採択された事業の実施内容で主たるものは、以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国から集まるマラソンにおける「おもてなし」事業。例えば、名産の杉版を使用した距離表示・方向表示等を作成、ランナーが宿泊する民泊先にインタビューし、それぞれの魅力をパンフレットにして配布する。 ・「智頭の達人百人」図鑑の作成事業。 <p>学生版百人委員会の成果は、目に見えるアウトプットのみならず、事業実施・運営のプロセスにおいて、生徒と大人との世代間交流の機会が創出された点、生徒に「自分のまちを自分で変えることができる」という認識をもたらした点であると言える。</p>
<p>成果資料目録</p>	<p>成果論文 https://www.jstage.jst.go.jp/article/jgd/35/0/35_3/_article/-char/ja</p>